

シクラメン サクラソウ科 開花期 10月～4月



週報  
通算 1936回  
2号

例会日：水曜日  
第1・第2 夜間・18:30～  
第3・第4・第5 昼間・12:30～  
例会場：華月殿 和歌山市屋形町 2-10  
事務局：〒640-8215 和歌山市橋丁 23  
サイバ-リンクス N-4ビル 2階  
TEL 073-423-3666 FAX 073-423-7200  
http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html  
E-mail : a-rotary@coral.cypress.ne.jp

会長：辻本圭三 幹事：土屋一博  
クラブ会報委員長：籠田 弘 副委員長：和田 薫

本日の例会  
12月24日(金)  
18:30～

ロータリーソング：われ等和歌山東南ロータリー  
行事：クリスマス親睦家族例会  
絆のラングイア和歌山

次回の例会  
1月12日(水)  
18:30～華月殿

行事：卯年生まれの会員卓話  
前田会員

先週例会報告

ゲスト：和歌山南RC 嶋谷泰典様

会場監督 鯨 拓也

会長挨拶

辻本圭三 会長



- 恒例に従い、RIのテーマの唱和をお願いいたします。  
「地域を育み、大陸をつなぐ」
- 本日、毎日新聞和歌山支局長の島谷様に卓話をお願いしています。島谷様は和歌山南ロータリーのメンバーであり、南との合同例会にも参加されていますので、当クラブの会員とは顔なじみであります。後ほど「マスコミがやってきた」との題で興味深いお話をお聞かせいただけるものと期待しています。
- さて、本日の会長報告の原稿はできていません。そこで、3日前の12日、日曜日に全日空ホテルで開催されたクラブ会長・クラブ会長エレクト、パストガバナー有志懇談会の内容について、少しお話をさせていただきます。林次年度ガバナーの問題について、中島パストガバナーの説明によりますと、平成22年3月29日指名委員会で、林氏をガバナーノミネーとして指名することに決定し、国際ロータリーでも承認されているとのことです。また、人物的にも、和歌山北ロータリークラブが選出された人ですので、ガバナーとして問題がないとの認識であるとのことです。すでに何年も前の出来事です、その間、和歌山北ロータリークラブの一員としてロータリー活動を行なってこられている人物ですから、過去の事実を云々するのは、ロータリーの寛容の精神にそぐわないのではないかと思います。
- ガバナーより、指名委員会内規案についてクラブで決議いただきたいとの申し入れがありましたが、クラブ協議会を開催するだけの時間的余裕がないため、本日の理事会で協議し、その協議結果をガバナーに回答することでご了解いただきたく、お願いいたします(賛成を得た)。

幹事報告

土屋一博 幹事



- ボーイスカウト日本連盟のカレンダーが2部届いています。ご入り用の方は事務局迄お願いします。
- 12月11日(土)、華月殿にて和歌山東支部学童野球納会に会長、幹事、南東南育英会委員長と3名で行ってまいりました。
- 12月14日(火)、市長室にて東南RC40周年記念文庫の贈呈式に7名(会長・松浦副会長・幹事・保田40周年記念事業委員長・津川40周年記念事業副委員長・釜中40周年記念事業担当委員長・中村40周年記念誌委員)出席し、感謝状をいただきました。
- 本日、例会終了後、定例理事会がございますので、役員・理事の方はお残りください。

ニコニコ箱

吉田 遼 副会計

辻本君・嶋谷様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。  
神谷君・北海道YMCA支援のための銀毛鮭をお買い上げ下さった皆様、ありがとうございます。  
堀君・もうすぐ、クルシママスです。  
中曾君・竹中様、お気づかいありがとうございます。  
ご結婚記念日お祝い・中板君、溝落君。

40周年記念BOX

吉田 遼 副会計

辻本君・昨日、市長に大活字本を贈呈してきました。  
太田君・嶋谷さん、卓話ありがとうございます。  
竹中君・嶋谷さん、いつもお世話になります。本日、よろしく。  
坂口君・嶋谷さん、よろしくお願ひします。  
南君・辻本会長、土屋幹事さん、先日は有難うございました。  
堀君・寒くなりましたね。

《委員会報告》 「第30回ライラセミナーのご案内」 東南育英会委員会 委員長 南美和子

日時・場所：3月5日(土)～6日(日) 高野山 恵光院 高野山町高野山 497

○メインテーマ「人生の目標」 研修テーマ「ヒソカ」 「歴史と自然に学ぶ」 サブテーマ「宗教環境都市で癒されよう」

ロータリアンには今回初めてロータリアンナイトを企画しています。

新世代部門 青少年奉仕が5大奉仕に5大奉仕に加わりました。青少年と今後の取り組み方を検討する機会になりますので、是非会員の皆様、ご参加くださいますようよろしくお願い致します。



ニコニコ	米山奨学金	ロー財団	東南育英会	40周年記念BOX
累計 998,290	171,000	268,000	29,000	565,000

出席報告	出席者	出席率
会員総数	52名 12/15	33名 66.00%
出席免除会員	3名 12/1	42名 85.71%



新聞記者の仕事とは別に、大阪で弁護士らと「人権と報道関西の会」という市民活動を約20年続けてきましたので、仕事の経験とともにそこで学んだことなども交えてお話しします。

今の日本では、刑罰以上の厳しいパッシングが、マスコミを通じて科せられています。殺人など重大事件とまでならなくても、身近な事件を例示してみましょ。私の知人の大学教授から聞かされた話です。ゼミの女子学生のお父さんは、一部上場企業の部長を務めていましたが、駅で痴漢の疑いで逮捕されました。本人は否認したものの、拘留が続きました。有名人などでない限り、このような事案は新聞業界ではボツにするか、掲載しても

地域面で匿名扱いにします。ところが、新聞1社だけ社会面で実名報道したため、逮捕が得意先にも知られることとなり、この部長は退職を余儀なくされました。大学生、高校生をかかえて最もお金のかかる時期に職を失ってしまったのです。

万が一、逮捕容疑が事実でも、家族まで路頭に迷うような社会制裁を受けるのはおかしいではありませんか。

続いて、捜査機関の取り調べで、「あなたも明日には“容疑者”に」なる実態です。今も昔も、さまざまなえん罪問題が起こっていますが、皆さんは「自分なら、そんなウソの自白をするはずがない」と思っているでしょう。でも、インテリや社会的ステータスの高い人ほど、自供に陥りやすいのです。刑事訴訟法では、最大で23日間、拘留されます。その間、朝から晩まで密室での取り調べが行われているうちに、精神的に参ってしまい、その場から逃げ出すために虚偽の自供をしてしまうことが、ままあるのです。捜査側の一つのテクニックは、家族を持ち出すこと。虚偽の自白をしてしまった兵庫県職員の場合は、「お前が認めなければ、嫁さんや親も逮捕するぞ」と迫られました。全く身に覚えのない自分がこうして犯人扱いされているんだから、妻や親が新たに逮捕されない保証はない、と追いつめられた末の自供だったそうです。

さまざまなえん罪事件がありました。今年6月に真相が明らかになった「足利事件」は記憶に新しいでしょう。約20年前のDNA鑑定の結果によって、全くの無実の男性が17年半も獄につながれたのでした。7月にこの男性や弁護士を招いての講演会が和歌山市内で開かれ、そのなかで私は新たな重大なことを勉強できました。えん罪を作るといことは、無罪の人の人権を侵害することにとどまりません。無罪の人が獄につながれている間に時効を迎えてしまい、捜査当局が何もしていない間に、新犯人を野放しにしておくことにもつながります。つまり、日本全国の治安が損なわれるということなのです。

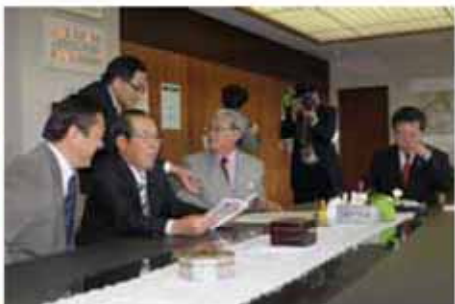
私はふだんから、「かかりつけ弁護士をもちましょ」と呼び掛けています。無実の罪に問われたとき、唯一の味方になってくれるのが弁護士。ところが、当番弁護士や国選弁護士が必ずしも親身になって裁判にあたってくれるとは限りません。日頃から親しくして、自分の人となりを理解してくれている弁護士こそが、頼りがいのある弁護人となってくれるのです。かといって、一般市民にとって弁護士というのは敷居が高い。そこで「環境、教育、福祉、人権など何でもいから、市民活動、NPO活動に加わってみましょ。そのような活動にはたいいてい、弁護士が個人的にメンバーとなっています。そこ場で、顔見知りになっていれば、しめたものです」とアドバイスしているのです。

さて今度は、容疑者側から視点を変えて、事件・事故の被害者が、報道によってどんな目に遭わされるかをお話します。私たちのグループは約10年前、京都・宇治の小学校校庭で児童が刺殺された事件取材し、対報道マニュアルとして「マスコミがやってきた」という本を出版しました。この事件でも、数百人ものマスコミ人が地域を占拠して、連日報道合戦を繰り広げ、それを恐れた子どもたちが屋外で遊ぶこともできなくなりました。通夜・葬儀でも強引な取材が行われ、女性テレビレポーターは「お棺の中を撮影させてほしい」とまで言って、地元の人を激怒させたそうです。

多くの犠牲者を出した明石歩道橋事故の遺族の証言も聞きました。事故直後、未明まで警察の事情聴取を受けて、明け方に帰宅すると、新聞には自分たちの知らない情報ばかり載っていたうえ、どこから流れたのか、亡くなった息子の写真まで掲載されていました。住んでいたマンション全体で、多くのマスコミ陣がインターフォンを深夜、未明に押しまくって取材合戦を繰り広げたとも聞きました。葬儀が終わってまだまだ傷心が癒えないのに、この遺族はマンション各戸に謝って回りました。遺族がなんで、こんなことをしなければならぬのでしょうか。マスコミだけではありません。卑怯な中傷電話もひっきりなしでした。「何でも子どもを危ないところに連れて行ったのか」と。その後、テレビ報道などの取材に応じていると「子どもが死んだのに、テレビのギャラをもらうのか」との電話やビラ。そんなお金はもらっていませんでしたのに。このようには中傷電話をするのは、すべて匿名の卑怯な人間です。これが今の日本社会の実態です。

とはいうもののマスコミ側も、徐々に取材手法や当事者・地域への配慮はするようになってきました。また、明石歩道橋事故の遺族もおっしゃっていましたが、「マスコミを味方につけたことによって、その後の裁判などで行政や警察を相手に闘うことができた。マスコミの巨大な力は、害悪にもなるし、市民の味方にもできる」ということでした。今後も市民が声をあげることで、人権に配慮された報道が根付いていくように見ていきたいと思えます。

40周年記念事業「和歌山市民図書館への本の贈呈式」和歌山市長室 12月14日(火) 11:00~11:20





和歌山東南RC  
**大活字本を寄贈**

創立10周年を記念して、和歌山東南RCは、市民図書館に500冊の大活字本を寄贈しました。この大活字本は、高齢者が読みやすいように、文字が非常に大きくなっています。また、本文だけでなく、表紙や帯にも大活字が使われています。市民図書館では、この大活字本を積極的に活用し、高齢者への読書活動を促進していく予定です。

市民図書館に寄贈

1日100冊、1000冊分  
 利用する際には、大活字本と通常の大活字本を併用していただく方が、読みやすいと感じる方もいると思います。4冊の寄贈書を確認してください。

**「高齢者らに役立つで」**

和歌山新聞の取材によると、この大活字本は、高齢者が読みやすいように、文字が非常に大きくなっています。また、本文だけでなく、表紙や帯にも大活字が使われています。市民図書館では、この大活字本を積極的に活用し、高齢者への読書活動を促進していく予定です。

MAINICHI  
**新毎日**

12月17日(金)  
 2019年(平成31年)  
 発行所：大和学芸印刷局(〒744-8559 和歌山県和歌山市) 電話：093-435-1394  
 毎日新聞大阪本社

**和歌山**

**産経新聞**

2019年(平成31年) 12月18日(土)  
 THE SANKEI SHIMBUN  
 和歌山版

**和歌山**

**大活字本500冊寄贈**

和歌山 東南RCに感謝状

独立和歌山北条清憲の「外務人など、多くの人が希望で和歌山市民図書館に大活字本を寄贈した」として、和歌山市民図書館に500冊の大活字本を寄贈した。市民図書館では、この大活字本を積極的に活用し、高齢者への読書活動を促進していく予定です。

和歌山東南RCは、市民図書館に500冊の大活字本を寄贈しました。この大活字本は、高齢者が読みやすいように、文字が非常に大きくなっています。また、本文だけでなく、表紙や帯にも大活字が使われています。市民図書館では、この大活字本を積極的に活用し、高齢者への読書活動を促進していく予定です。

毎日新聞 和歌山版 12月17日掲載頂きました。

産経新聞 和歌山版 12月18日掲載頂きました。